

大河津分水路の改修事業について

国土交通省 北陸地方整備局
信濃川河川事務所

信濃川流域の概要

○信濃川は、その源を長野、山梨、埼玉県境の甲武信ヶ岳(標高2,475m)に発した後、主要な支川として長野市で犀川を、新潟県長岡市で魚野川を合わせて越後平野を貫流し、途中、大河津分水路を分派し日本海に注ぐ、幹川流路延長367km、流域面積11,900km²の一級河川。

○信濃川流域は、本州日本海側初の政令指定都市である新潟市や新潟県第2位の人口を有する特例市である長岡市、長野県の県庁所在地である長野市等を抱え、これらの地域を含めた沿川における社会・経済・文化の基盤を形成。

<流域のデータ>

幹川流路延長:367km(全国1位)

流域面積:11,900km²

主な市町村:

新潟県:新潟市、長岡市、燕市等、12市4町2村

長野県:長野市、松本市等、13市12町6村

群馬県:中之条町 1町

流域内人口:約295万人

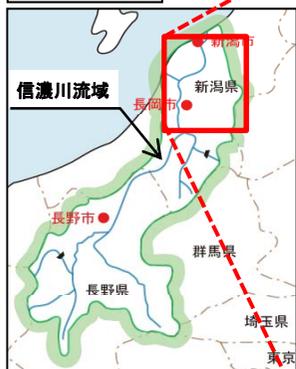
流域内一般資産額:約60兆円



大河津分水路の改修事業について(概要)

- 大河津分水路は、河口部において洪水を安全に流下させる断面が不足。
 - 戦後最大規模(S56年8月)の洪水が流下した場合、分水路上流の長岡市付近まで計画高水位を超過。
 - 水位上昇の影響で氾濫が想定される区域には、新潟市、長岡市、燕市などが位置。
 - 大河津分水路の改修(分水路の拡幅)により、戦後最大規模の洪水に対して家屋の浸水被害を防止。
- ※大河津分水路は、信濃川上中流部の洪水を日本海にバイパスして新潟市街地等を洪水氾濫の危険性から守る人工河川

位置図



事業概要



近年の災害



S56年8月洪水 小千谷市元町



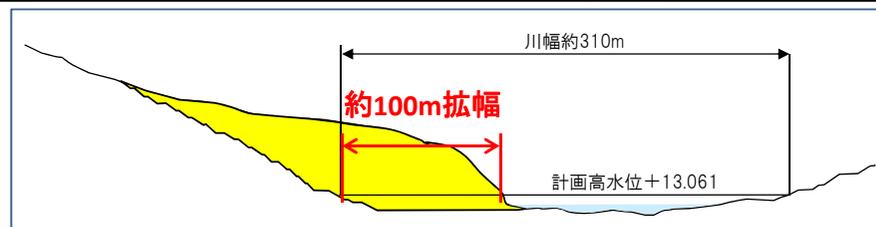
H23年7月洪水 魚沼市下島

洪水	信濃川中流部における家屋浸水被害
S56年8月洪水	床上浸水1,446戸 床下浸水1,502戸
H23年7月洪水	床上浸水 229戸 床下浸水 689戸

H23年7月洪水では大河津可動堰の上流で計画高水位を超過

事業内容

- 目的:戦後最大規模(S56年8月)の洪水に対して家屋浸水被害を防止
- 事業箇所:新潟県長岡市、燕市
- 事業内容:放水路の拡幅(山地部掘削、第二床固改築等)
- 全体事業費:約1,200億円
- 事業期間:H27年度~H44年度



大河津分水路の改修事業について(実施状況)

- 平成27年度
地権者等の確認や土地・物件の調査。用地買収に向けた協議を開始。
新第二床固及び山地部掘削の設計及び施工計画の検討。地質調査の実施。
- 平成28年度
引き続き、新第二床固及び山地部掘削の設計及び施工計画の検討。地質調査の実施。
野積橋架替に向けた詳細設計の実施。
あわせて野積橋架替工事に関する道路管理者との基本協定に関する協議。(5月10日付 締結)
河口山地部掘削(準備工事)に着手<今後予定>

事業箇所



新第二床固及び山地部掘削の設計及び施工計画の検討
野積橋架替に向けた詳細設計の実施(道路管理者との協議)

事業工程

	H27 1年目	H28 2年目	H29 3年目	H30 4年目	H31 5年目	H32 6年目	H33 7年目	H34 8年目	H35 9年目	H36 10年目	H37 11年目	H38 12年目	H39 13年目	H40 14年目	H41 15年目	H42 16年目	H43 17年目	H44 18年目
用地取得																		
掘削工																		
新第二床固																		
現第二床固 切下げ工																		
野積橋 架替工																		

※上記工程は、新規事業採択時評価時に想定した工程であり、今後変更となることがあります。

第二床固設計の地質調査の状況



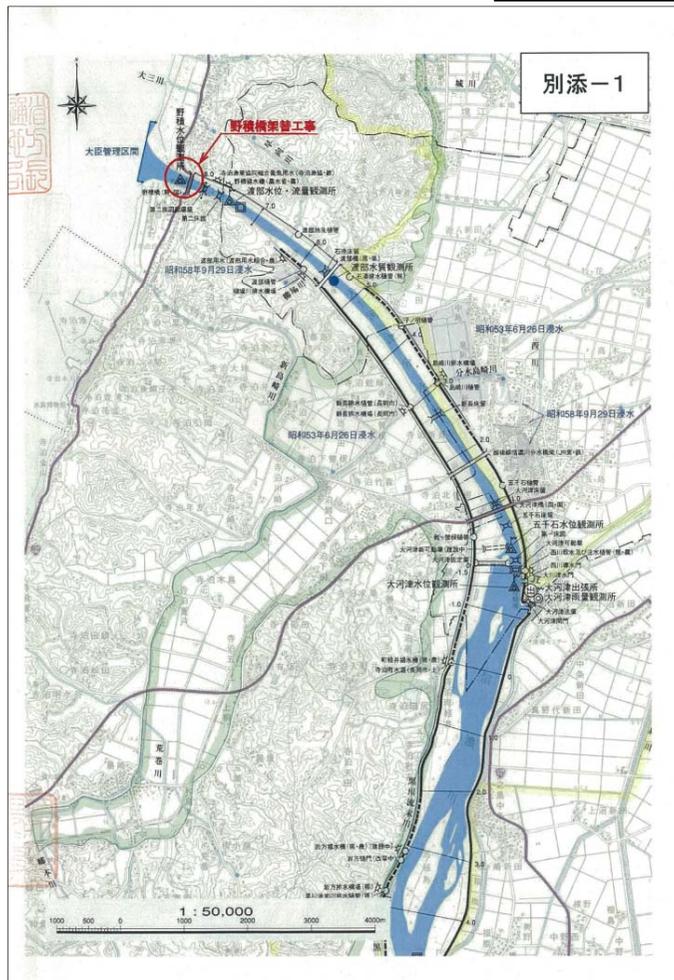
地質調査の実施状況
(設置される予定の河道内に足場を設けて地質調査も実施)

写真H28.1撮影

新野積橋(基本協定の締結)について

- 野積橋架替工事に関して道路管理者である新潟県と協議を行い5月10日付で基本協定を締結。
- 基本協定とは、工事の設計及び施工について国が実施することなどの基本的事項を北陸地方整備局長と新潟県知事が取り決めたもの。
- 現在、工事のための設計を国が主体となり県、市と調整しながら行っている。

基本協定書の添付図



■ 今後、実施予定の大河津分水路河口部の土砂掘削・運搬に伴う、準備工事に着手する予定です。



大河津分水路の改修に伴う工事用道路(土砂運搬)の検討 平面図

【工事用道路の着色】

凡 例	
	既設運搬路
	新設運搬路(計画)



※工事用道路は今後、測量結果により変更となる場合があります。

項 目	H27年度		H28年度											
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
占有者説明会		●				●		●						
現地測量						■								
コロニーにいがた旧重度児居住棟取壊工事						■								
工事用道路工事									■					

説明会	実施状況及び予定
H28.3.3	占有者説明会 (右岸側)
H28.3.10	占有者説明会 (左岸側)
H28.7.中旬 (予定)	占有者説明会 (右岸側)
H28.7.中旬 (予定)	占有者説明会 (左岸側)

※当該左右岸の高水敷は、占用地となっている。

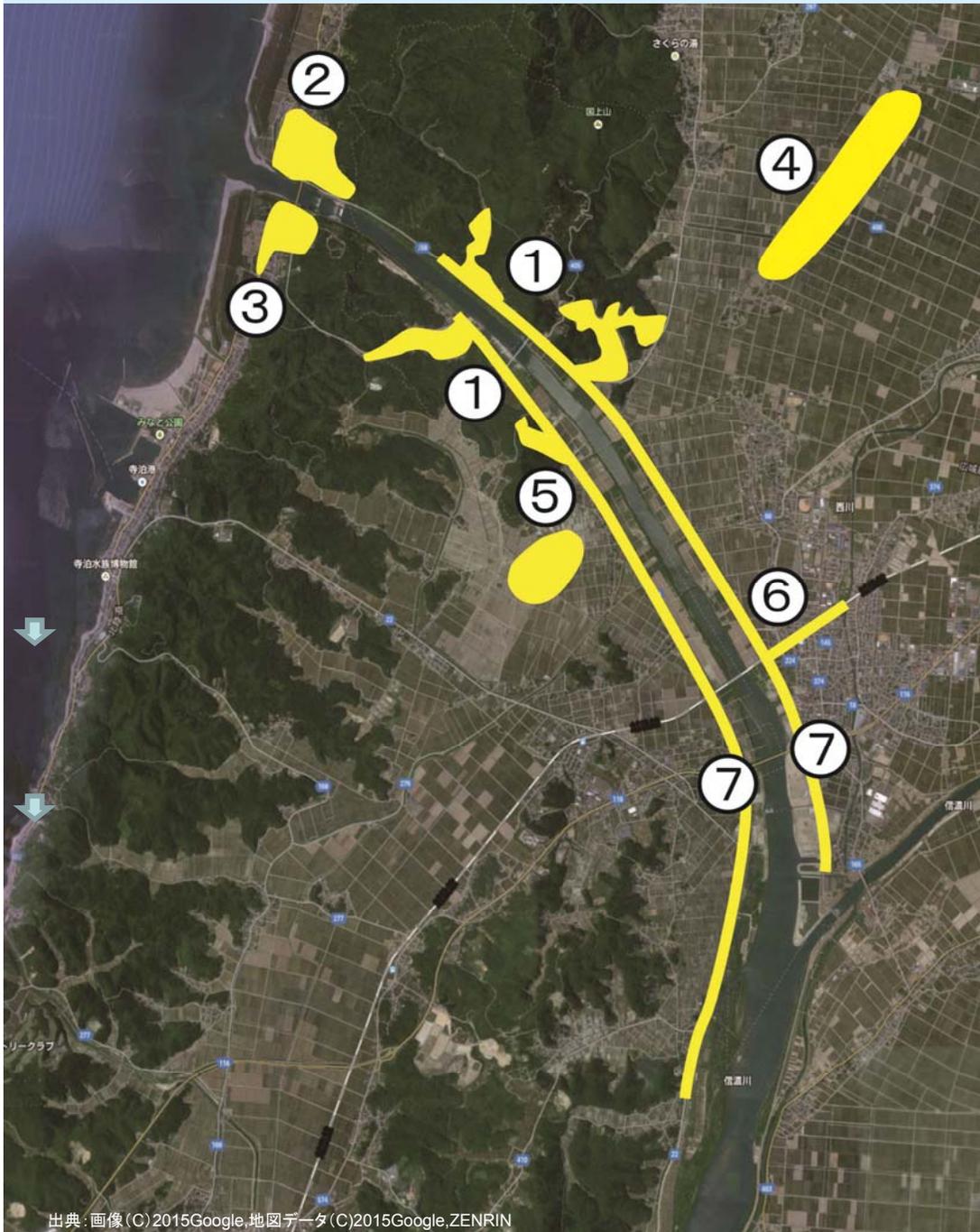
- 新川口地先、藪田地区、渡部地区の3地区とも用地測量、物件調査は概ねH27年度で完了し、藪田地区は、現在境界確認印をもらう作業中。その他は、補償額算定作業中で、一部用地協議に入っている。特に白岩団地残存者の懸念である工事施工中の騒音、振動、粉塵発生による予測値、団地内機能補償道路設計、今後の用地取得スケジュールなどの説明会を開催予定。
- 各地権者への補償額提示は、境界確認印の押印、土地・物件調書の確認後、速やかに行う。
- コロニーにいがた旧重度児居住棟取壊工事を6月20日に契約済。10月末に撤去完了見込み。
- 9月中に環境レポート公表予定。

大河津分水路改修事業に関する環境調査

環境調査項目	
大気質	風向・風速、粉じん等(降下ばいじん量)、窒素酸化物
騒音	建設機械の稼働が予想される対象事業実施区域及びその周辺の区域における騒音レベル 工事用車両の運行が予想される道路の沿道における騒音レベル 第二床固工からの落水音の騒音レベル、地表面の種類
振動	建設機械の稼働が予想される対象事業実施区域及びその周辺の区域における振動レベル 工事用車両の運行が予想される道路の沿道における振動レベル、地盤種類、地盤卓越振動数
水質	水質(土砂による水の濁り)、水質(水素イオン濃度)
底質(水底の泥土)	土壌の状況
地形及び地質	(重要な地形及び地質)
動物	
植物	
生態系	
景観	
人と自然との触れ合いの活動の場	
廃棄物等	

※環境レポートとは、事業特性を踏まえつつ環境影響の検討項目を定めた。

分水路開削時に発生した土砂の有効利用先



M42～T13の土砂の有効利用先一覧

No.	土砂搬出先	土量
①	左右岸裏山の低地箇所	2,160万m ³
②	河口右岸野積地先	
③	河口左岸寺泊地先	
④	国上村御新田地内の沼沢地	157万m ³
⑤	寺泊町・潟七ヶ村・円上寺潟の沼沢地	69万m ³
⑥	越後線地蔵堂駅（現分水駅）の前後取付け線路敷	12万m ³
⑦	分水路左右岸の堤防築立	445万m ³
⑧	その他（低地箇所への土砂供給による造成）	37万m ³
合計		2,880万m ³



④腰まで水につかる深田の様子 → 盛土造成によりコンバインが稼働する美田



⑤昔から沼沢地である円上寺地区農地 → 盛土造成により乾田化・工業地帯



⑥⑦横田村小池破堤の様子 → 越後線地蔵堂駅の新設に盛土として利用し、交通網の発達、安全・安心な都市形成に寄与しました。

①高水敷造成



平成26年7月撮影

②河川堤防の腹付け(側帯)



③田んぼの盤上げ

